

委員会行政視察報告書

委員会名 <u>総務文教常任委員会</u>				
活 動 委 員 名				
堰野端展雄 副委員長		櫻田百合子 委員		氣田量子 委員
久慈年和 委員		舛甚英文 委員		
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	(一人当りの費用)	
666,260円	—	5,234円	(134,299円)	671,494円
期 間 (年月日)	平成29年7月19日、～7月21日			
視察事項	1、婚活事業の取り組みについて			
	2、PPPの取り組み状況について			
視察先	大分県臼杵市 大分県別府市			
内容及び成果	堰野端展雄			
1、婚活事業の取り組みについて	臼杵市においても高齢者数の増加と人口減少は喫緊の課題であり、平成36年には高齢化率が40パーセントに達すると見込まれているとのこと。			
	要因としては、男性・女性ともに未婚率が全国平均ならびに大分県平均よりも高いこと。			
	また、それに伴い第一子の出生率が低いことがあげられ、結婚を希望する男女を結婚に結びつけるための取り組みが急務であるとし、平成27年度より本格的に婚活事業に着手し、			
	同年7月に臼杵市婚活推進協議会を設立。市内において婚活事業に取り組んできた団体、地域活動団体の代表、一般公募による市民などで委員を構成し、組織化した。委員は10名（女性は4名）年齢は20代～70代と幅広く、各団体から構成されているため、それぞれのイベントが重ならないように出来るメリットが生まれたとのこと。			
	婚活推進協議会では、主催婚活イベント「うすきラブラブ」に力を入れているようで、これまで婚活イベントに参加したことがない人たちなど、広く取り込めるよう、イベントの内容を工夫したり、チラシのデザインも凝らして取り組んでおり、初年度の27年度のカップル成立数は2組が、カウントの仕方を変えたとはいえ、28年度は42組と大幅に増加している。			
	特に28年度は、「うすきラブラブ～学校編～」を開催。廃校となった校舎を利用し、料理			

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

も給食風にするなど、面白いアイデアで取り組んでいることが功を奏しているようだ。

また、28年度から新たに設置した結婚支援員「イランショワさん」も大きな役目をはたしているようだ。これは、臼杵市内において、独身男女の縁結びや婚活イベントへの参加の呼びかけなどのお世話をやく活動をボランティアで行う人のことで、「余計なお世話」が方言で「いらんせわ」が「イランショワ」になったそうである。このイランショワさんは、28年度からの「うすきラブラブ～学校編～」に参加してもらっているとのこと。それは、初対面のためか、なかなか話が出来ない人たちの間を取り持つ役目をはたしているようで、このこともカップル成立数に大きく関わっているものと思われる。

このように、非常に実績をあげている事業のようではあるが、婚活事業は即効性のあるものではなく、どんなに力を入れても成婚に至るのはほんの数パーセント。しかし、それを割り切ることが必要であり、費用対効果云々ではないということを認識することが重要である。なぜなら、少子化対策だけが婚活事業の目的だけではなく、現在のまま進めば、人口の30パーセント以上が未婚のまま高齢者となり、孤独死や寝たきり、ひいては医療費の増加に繋がっていくことになりかねないと、臼杵市の担当者は話していた。

全てにおいて、非常に充実した研修となった。

2、PPP（公民連携）の取り組み状況について

PPPとは、行政と民間事業者が共に物事を創り上げていくこと（公民連携）をいうが、別府市は市長が積極的に取り組むようにしたようだ。

公民連携に取り組む目的は、これまで行政が単独で取り組んできた分野に、民間の力を活かすことで、より良い公共サービスの提供や市の財政負担の軽減、地域の活性化などを図るためである。

別府市では、民間と行政をつなぐ役割を担うため、平成28年4月に公民連携室を新設。翌年4月には、機構改革により公民連携課となったとのこと。公民連携課では、民間事業者と行政の間に入り、提案・相談・意見交換のワンストップ窓口となり、行政課題の提示や民間提案の事業化を調整したり、PPPに参画するプラットフォームを構築するなどの役割を担っている。

この中で、特に注目したのがサウンディング調査の実施である。このサウンディング調査とは、従来、行政で事業を検討する際、発案から計画までの全てを行政だけで行っていた。いまでこそ、ある程度の検討を経て公募をするようにはなっているものの、それではまだ不十分であるとし、発案や検討の段階で事業概要の公表を行い、民間事業者と直接の意見交換により、事業者からの有用な意見やアイデアを収集することを目的としている。

まだ取り組んで日が浅いものの、担当者は非常に手ごたえを感じているようである。例えば、公的負担のラインをどこにするのかが分かったり、様々な情報を得ることができたとのこと。

当市においても、PPPを早急に推進するよう認識させられた研修であった。

（ 堰野端展雄 ）

総務文教委員会 行政視察

総務文教委員会委員
桜田 百合子

- 1、 日時 平 29 年 7 月 19 日～21 日
- 2、 研修視察場所 大分県臼杵市・大分県別府市
- 3、 調査・視察目的
別紙のとおり

4、 内容及び成果

I：臼杵市：7月20日(木)9：00～10：30

うすきの婚活事業について

- ・臼杵市において高齢者数の増加と人口の減少が今後一層進むと予想される(平成 26 年度時点で 10 年後には高齢化率は 40%に達する)
- 人口の現状と将来の姿を把握するために平成 26 年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」地方創生のチャンス、早期に人口ビジョンを作成。
- ・臼杵市は 2010 年の国勢調査において若年層、特に 30 歳代において、男性女性ともに未婚率が全国平均並びに大分県平均よりも高い。
- ・未婚率が高いことに伴い第一子の出生率が低い。

◆これらの現状を踏まえ、結婚を希望する男女を結婚に結びつけるための取り組みが急務とされ平成 27 年 7 月“臼杵市婚活推進協議会”が設立される。婚活推進協議会の構成メンバーとして、これまで婚活事業に取り組んできた団体、地域活動団体、一般公募による市民などで委員を構成。市の組織とは別であり、市の補助金で運営。

婚活推進協議会の活動(27 年度)

- ・協議会(会議)6 回開催
- ・ナインイのお見合い大作戦！の開催に向けた参加者集め
- ・主催婚活イベント「うすきブラ♡ブラ」開催
- ・民間主催の婚活イベントの後援(広報・運営支援)
- ・フェイスブック立ち上げ
- ・イランショワ制度の検討

婚活推進協議会の活動(28 年度)

- ・協議会(会議)5 回開催
- ・主催婚活イベント「うすきブラ♡ブラ～学校編～」開催
- ・民間主催の婚活イベントの後援(広報・運営支援)

- ・ 少子化対策重点推進交付金事業のバックアップ
- 成果としては、平成 27 年度カップル成立数 2 組
平成 28 年度カップル成立数 42 組

今後の婚活事業の更なる充実として

- ・ 国の少子化対策重点推進交付金を活用した活動
- ・ 臼杵市婚活推進協議会による取り組み
- ・ 臼杵市結婚支援イランショワさんの設置
- ・ 大分県と愛媛県の連携による婚活フェリー

婚活については取り組んでいる自治体は多いが、今回のうすきの婚活事業においては、ネーミングのインパクトもあり支援員として活動されている、イランショワさんの存在が大きいと感じた。平成 29 年度 7 月現在 11 名で構成されており、お世話焼きやおせっかいに似た意味で、臼杵になじみのある方言「いらんしょわ(世話)」を使った名前。実際にイランショワさんの同席によってフォローアップにつながったと実績もあがっている。婚活事業に即効性のあるものはなく、力を入れても成婚に至るのは数%(1 桁)というよう数字が表すように地道な取り組みであると感じた。また、少子化対策だけが婚活事業の目的ではなくこのまま進めば、人口の 3 分の 1 が未婚のまま高齢者(孤独死、寝たきり、医療費増)。という現実をふまえると、行政が本気になって取り組まなければならない施策の一つであると強く感じた。

Ⅱ：別府市：7 月 20(木)13：30～15：00

別府市の PPP の取り組みについて

・ 別府市では人口減少による税収の低下、社会保障費の増大、市民ニーズの高度化、多様化などの社会的要因を受け、これまで行政が単独で取り組んできた分野に、民間の力を生かすことで、より良い公共サービスの提供や市の財政負担の軽減、地域の活性化を図るためを目的とし、民間と行政をつなぐ役割を担うため、平成 28 年 4 月に公民連携室を新設した。平成 29 年 4 月、機構改革により公民連携課となる。(課長 1 名、課長補佐 1 名、主査 2 名)

公民連携課の役割は

1. 提案・相談・意見交換のワンストップ窓口
2. 行政課題の提示・民間提案の事業化を提案
3. PPP に参画するプラットフォームを構築

28年度に行った取り組み

・サウンディング調査の実施

公民連携事業の発案や検討の段階で事業概要の公表を行い、民間事業者との直接の意見交換により、事業への有用な意見やアイデアを収集することが目的で行われる。

1、温泉の余剰熱源分利活用策として「温泉電源ステーション」の導入可能性をサウンディング調査

- 結果としては、事業採算性はあまり見込めないと判明した。

対話実施年月日 平成29年2月15・22日

参加業者 3社(県内2社・県外1社)

2、鉄輪地獄地帯公園整備事業サウンディング調査

鉄輪地獄地帯に隣接した未利用地(3.0ha)の整備・運営等に民間活力導入を前提とした公募条件を整理するため、また、民設民営の公園整備や施設整備の可能性などを探ることを目的として、サウンディング型市場調査を実施。

- 結果としては、立地条件はいいが…

もちろん行政の負担は0ではなく、公的負担の線引きが難しい等。

29年度予定している取り組み

・PPPプラットフォームの立ち上げ

地場企業や金融機関、教育機関等の様々な団体が集まり、PPP/PFIに関する知識の習得や異業種間のネットワークを構築し、案件形成能力を向上する場

・予定事業等の公表

市が計画している事業のうち、PPPによる事業実施の可能性があるものを、事業の進捗度合により整理して公表する。早期の情報提供により、民間事業者からの事業に対する提言・発案等が期待される。

十和田市においても、公共施設及び道路、上下水道等のインフラ系施設を対象とした十和田市公共施設等管理計画を素案とした公共施設個別施設計画(第1期10年)の中で、市営住宅(市営住宅金崎A,B団地)、市営住宅上平団地の建設においてPPP/PFIの導入が検討されていたが、導入される見通しである。

今後、PFI事業を活用するにあたり、具体的な動きが取られるようだが、しっかりと入居者からの聞き取りや、現状の把握、その後の見通しを立てながら、事業に取り組んで頂きたいと思います。

委員会行政視察報告書

総務文教常任委員会

氣田 量子

日時 平成29年7月19日～21日

視察先 大分県臼杵市・別府市

・「うすきの婚活事業」について

臼杵市は少子高齢化・人口減少社会が今後一層進むばかりで、今のままでは20年後には人口約3万人程度、10年後には、高齢化率は40%に達する。若年層、特に30歳代において、男性・女性とも未婚率が全国平均より高い。未婚率が高いことに伴い、第一子の出生率が低いので、結婚を希望する男女を結婚に結び付けるための取り組みが急務であるとのことから、平成27年度より本格的な婚活事業に着手。そして、婚活事業の方針を検討する場がない・婚活事業の委託先が無い・TBS「ナイナイのお見合い大作戦!!」に正式エントリーしたが、もし、開催地に選ばれた場合は実行委員会が必要等々、課題が見えてきた段階で、平成27年7月、臼杵市婚活推進協議会を設立しました。協議委員として、臼杵市においてこれまで婚活事業に取り組んできた団体、地域活動団体の代表、一般

公募による市民などで構成し、協働まちづくり推進局内に事務局をおく形で組織。

婚活推進協議会の活動

- ・ 協議会 6 回開催

(婚活事業の方針検討やイベント案の検討等)

- ・ ナイナイのお見合い大作戦！の開催に向けた参加者集め
- ・ 主催婚活イベント「うすきブラ♡ブラ」開催
- ・ フェイスブック立ち上げ
 - ➡ 「臼杵市婚活推進協議会」で検索
- ・ イランショワ制度の検討（お世話焼き制度市長提案）

婚活事業更なる充実ということで、平成 28 年度は

- ・ 国の少子化対策重点推進交付金を活用

婚活おうえん講演会（2回）

（結婚や家庭を築くということに対してポジティブな気持ちを持てるよう）

スキルアップセミナー（男女2回）

（異性との交際に向け個人の魅力向上を図る）

婚活パーティー（2回）

- ・ 臼杵市婚活推進協議会による取り組み

- ・臼杵市結婚支援イランショワさんの設置

(個人単位できめ細やかな以遠)

- ・大分県と愛媛県連携による婚活フェリー

(広域的な婚活事業)

カップル成立は、平成27年度 2組、平成28年度 42組。

結婚成立は1件。

カップル成立増加の要因は、婚活イベント（パーティー）数の増加やカップル成立のカウントの仕方をパーティーの中で行ったためである。

カップル成立の要因として「イランショワさん」の同席も大きな成果である。「イランショワさん」はお世話焼きやおせっかいに似た意味で、臼杵になじみのある方言を使った名前で、良い意味でのおせっかいを焼いて欲しいと覚えやすく愛着のある名前である。

まとめとして。婚活事業には即効性のあるものではありません。どれだけ婚活事業に力を入れても成婚に至るのは数%。自治体がすることで婚活への垣根を下げることができる。少子化対策だけが婚活事業の目的ではなく、人口の1/3が未婚のまま高齢者になると、孤独死や寝たきり、医療費の増になっていく。

当市においても様々な婚活が開催されているが、成婚率は臼杵市と同じ現状。婚活パーティーなどの成果は臼杵市を見習っていかなくてはならないと思います。お世話焼き人の制度は必要ではないかと痛感しました。即効性がない事業だが、始めなければ成婚もないので地道に進めていく大事な事業だと改めて認識致しました。

・別府市の公民連携の取り組みについて

公民連携（PPP）とは、行政（Public）・民間事業者（Private）・共創（Partnership）

別府市で公民連携に取り組む背景

「べっふの未来を共創するために、別府市が持つ資源（人・温泉）をいかして新たな価値を創り、儲かる別府に進化する」

社会的要因

- ・人口減少による税収の低下
- ・社会保障費の増大
- ・市民ニーズの高度化、多様化

公民連携に取り組む目的

これまで行政が単独で取り組んできた分野に、民間の力を活かすことで、より良い公共サービスの提供や市の財政負担の軽減、地域

の活性化などを図ります。

- 1、 市民サービスの資質向上
- 2、 民間の資金やアイデア活用
- 3、 地域経済を活性化
- 4、 公共の財政負担を軽減

別府市では、民間と行政をつなぐ役割を担うため、平成 28 年 4 月に公民連携室を新設しました。平成 29 年 4 月、機構改革により公民連携課となりました。

公民連携課の役割として

- 1、 提案・相談・意見交換のワンストップ窓口
- 2、 行政課題の提示・民間提案の事業化を調整
- 3、 PPP に参画するプラットフォームを構築

平成 28 年度に行った取り組みは、サウンディング調査の実施。公民連携事業の発案や検討の段階で事業概要の公表を行い、民間事業者との直接の意見交換により、事業への有用な意見やアイデア収集することが目的です。

- 1、「おんせん電源ステーション」の導入可能性に関するサウンディング調査

- ・温泉の余剰熱源分利活用策として、「おんせん電源ステーション」導入可能性をサウンディング調査。

2、鉄輪地獄地帯公園整備事業サウンディング調査

- ・鉄輪地獄地帯公園に隣接した未利用地（約 3.0ha）の整備・運営等に民間活力導入を前提とした公募条件を整理するため、また、民営の公園整備や施設整備の可能性などを探ることを目的として、サウンディング型市場調査を実施。

本年度予定してる取り組みは、地場企業や金融機関等の様々な団体が集まり、PPP/PFI に関する知識の習得や異業種間のネットワークを構築し、案件形成能力を向上する場、PPP プラットフォームの立ち上げや、市が計画している事業のうち、PPP による事業実施の可能性があるものを、整理して公表します。早期の情報提供により、民間事業者からの事業に対する提言・発案等が期待されます。

感想として、公共施設等の施設の寿命化や維持管理コストの縮減を図るためには当市でも PPP/PFI の活用が必要になっていくのではと感じました。その為に早い段階から準備をしていかななくてはならないのではないのでしょうか。

平成29年 8月 3日

総務文教常任委員会 先進地行政調査報告書

総務文教常任委員会 久慈 年和 委員

1. 参加者 総務文教常任委員会 副委員長 堰野端 展雄
委員 舛甚 英文
委員 久慈 年和
委員 気田 量子
委員 桜田 百合子

2. 調査報告書

<大分県臼杵市>

臼杵市は、大分県の南東部に位置し、北は大分市、南東は津久見市、南は佐伯市、西は豊後大野市と隣接している。現在の臼杵市は、平成17年1月1日に旧臼杵市と旧野津町が合併して誕生した市であるため、旧臼杵市の中心部である臼杵庁舎周辺と旧野津町の中心部である野津庁舎周辺の二箇所に、中心市街地が形成されている。

合併後の面積は、約291km²であり、そのうち約7割が山林、約1割が耕地であり、市の東側は豊後水道に面した臼杵湾に臨んでいる。

臼杵市の現在の人口は、41,843人（平成25年4月現在）であり、減少が続いている。

一方で、65歳以上の高齢者人口は、14,107人（平成25年4月現在）であり、高齢化率は33.7%となるなど、高齢化が進んでいる。

臼杵市による将来人口推計では、平成30年には人口が4万人を下回り、平成45年には3万人にまで減少すると予測されている。また、高齢化率が上昇する傾向は今後も続き、平成35年には高齢化率は40%を超えると予測されている。

臼杵市は、戦国時代、九州6か国を治めたキリシタン大名大友宗麟が、1562年、四方を海に囲まれた天然の要塞であった羽生島城（臼杵城）を築城した。その当時の臼杵は、明やポルトガルの商人が行き交う国際的な商業都市として大変栄えた。

現在の町並みは、1600年に稲葉氏によって築かれた。

城を中心に、商家がたち並び、その外側を武家屋敷や寺院が取り囲むように町が形成されていることが大きな特徴です。曲がりくねった道やカギ型の通りなど、ぶらぶらと歩くのが臼杵の楽しみです。

臼杵市の議員報酬等

議 長	420,000円
副議長	365,000円
議 員	340,000円

うすきの婚活事業について

担当：臼杵市 総合政策課

① 経緯 1

- ・ 少子高齢化、人口減少社会
臼杵市においても高齢者数の増加と人口の減少は、今後一層進む。
今のままだと、20年後には人口は約3万人程度
10年以内には、高齢化率は40%に達する
- ・ 平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」
地方創生チャンス、早期に人口ビジョンを作成
人口の現状と将来の姿を把握

② 経緯 2

- ・ 若者層、特に30歳代において、男性・女性ともに未婚率が全国平均ならびに大分県の平均よりも高い

③ 経緯 3

- ・ 未婚率が高いことに第一子の出生率が低い
結婚を希望する男女を結婚に結びつけるための取り組みが急務だ

④ 臼杵市婚活推進協議会設立

- ・ 平成27年度より本格的に婚活事業に着手
婚活事業の方針を検討する場がない
婚活事業の委託先がない
TBS「ナイナイのお見合い大作戦！」に正式にエントリー
もし、開催地に選ばれた場合は実行委員会が必要
(開催すれば、600万円の経費が必要)

↓

平成27年7月 臼杵市婚活推進協議会設立

臼杵市において、これまでに婚活事業に取り組んできた団体、地域活動団体の代表、一般公募による市民などで委員を構成し、当時の協働まとづくり推進局内に事務局を置く形で組織

⑤ 平成29年度 臼杵市婚活推進協議会名簿

- ・ 平年齢構成は20～70代と幅広い
- ・ 既婚未婚を問わず
- ・ ボランティアのため報酬なし（交通費のみ支給）
 - 50代 女性 吉四六さん村グリーンツーリズム研究会
 - 30代 男性 若者交流実行委員会
 - 70代 女性 海辺婦人学級
 - 40代 男性 臼杵中央ロータリークラブ
 - 20代 女性 一般公募
 - 30代 男性 臼杵商工会議所青年部
 - 30代 男性 臼杵商工会議所青年部
 - 40代 女性 一般公募
 - 40代 男性 臼杵市農業後継者二葉会
 - 30代 男性 市役所若手有志団体フラッツ

⑥ 臼杵市婚活推進協議会

- 目的
- ・ 結婚を望む独身男女の出合いの場
 - ・ 交際のきっかけづくりの場を創出
 - ・ 結婚に向けた活動の支援並びに結婚市内への定住の促進

- ・若い世代の男女に、結婚の喜び、意味、家族を持つことの素晴らしさを伝える
- 方針
- ・地域ぐるみの婚活事業を推進
 - ・構成婚活事業に対する支援
 - ・出会いの場の創出だけでなく、若い男女それぞれのスキルアップの提供
 - ・結婚に向けた機運の醸成
 - ・一過性ではない、継続的な出会いの場の創出

具体的な取り組み

- ・ナインイのお見合い大作戦！の開催に向け取り組み
- ・イランショワ（世話焼きおばさん）制度の確立
- ・既存事業の支援
- ・協議会HPの作成

⑦ 婚活推進協議会の活動

平成27年度

- ・協議会（会議） 6回開催 婚活事業の方針検討やイベント案の検討など
- ・ナインイのお見合い大作戦！の開催に向けた参加者集め
- ・主催婚活イベント「うすきラブ♡ラブ」開催
- ・民間主催の婚活イベントの後援（広報・運営支援）
- ・フェイスブック立ち上げ
- ・イランショワ制度の検討

⑧ うすきラブ♡ラブ

これまで婚活イベントに参加したことがない人達などに広く取り組む

- ・イベント内容を工夫
- ・チラシ、デザインにも注力
- ・参加料 男性2,500円 女性1,500円

酒を出したため、参加料に男女の差をつけた。しかし、参加料を同じくし、料理で元を取ったと思わせるイベントにしたい。

⑨ 婚活事業の更なる充実を

平成28年度は婚活事業をさらに強化

- ・国の少子化対策重点推進交付金を活用（10/10）
 - 婚活おうえん後援会（2回）
 - スキルアップセミナー（男女各2回）
 - 婚活パーティー（2回）
- ・臼杵市婚活推進協議会による取り組み
- ・臼杵市結婚支援イランショワさんの設置
 - 個人単位でのきめ細かい支援
- ・大分県と愛媛県の連携による婚活フェリー
 - 広域的な婚活事業

⑩ 臼杵市結婚支援員イランショワさん

- ・平成28年7月 臼杵市結婚支援員「イランショワさん」の登録制度スタート
- ・イランショワさんとは
 - 臼杵市において独身男女の縁結びや婚活イベントへの参加の呼びかけなどのお世話焼き活動をボランティアで行う人
- ・名前の由来は？
 - 「イランショワさん」とは、お世話焼きやおせっかいに似た意味で、臼杵になじみのある

方言「いらんしょわ（世話）」を使った名前。素敵な、良い意味でのおせっかいを焼いてほしい。覚えやすい愛着ある名前。

- ・ イランショさん11名（平成29年7月現在）
継続して募集中。
昨年度末までは12名。辞退により1名減。
暴力団との関係 ⇒ 誓約書で堪忍
- ・ 活動実績（平成28年7月～平成29年3月）
結婚報奨金支払件数 0件 ⇒ 支援員の大半は報奨金を嫌がる傾向
情報連絡会 ⇒ 2か月に一回程度のペースで開催
相談者を集めた交流会「ランショさんのお茶会」を今後開催

⑪ まとめ

- ・ 婚活事業には、即効性のあるものはない
どれだけ婚活事業に力を入れても成婚に至るのは数%
- ・ 自治体がすることで、「機運の醸成」につながります
婚活への垣根を下げる
- ・ 少子化対策だけが婚活事業ではない
このまま進めば、人口の1/3が未婚のまま高齢者になる。（孤独死、寝たきり、医療費増）

<行政調査の感想>

婚活事業（イベント）で、次のような問題点も指摘されていた。

- (1) フリータイムが本当にフリーになったり、参加者同士で話す時間がほとんどない。そのため、婚活推進協議会の会員が何人かが、イベントに参加して、参加者同士で話す機会をつくってあげている。
- (2) スタッフがやたらに多い。手のすいたスタッフが好奇の目で参加者を眺めている。また、参加者同士の交流会を肴に、スタッフが宴会を始めるなど、スタッフの参加者に対する配慮が求められている。
- (3) イベントポスターがスーパーのチラシとか町内のお知らせみたいになっている。ポスターやチラシの内容や作り方の工夫や課題もある。
- (4) イベントを開催したスタッフが、イベントの様子を写真付きでSNSに投稿している。個人情報への配慮が足りない。

どれだけ婚活事業に力を入れても成婚に至るのは数%という状況で、根気よくイベントに取り組む必要と、市役所に「若手有志団体フラッツ」があり、楽しいことを何でもやるというボランティア団体があり、婚活推進協議会にも大きく関わっていた。

十和田市で、婚活事業に取り組む若手が中心になり、婚活推進への機運を高めてほしい。

<大分県別府市>

別府市は、九州の北東部、瀬戸内海に接する大分県の東海岸のほぼ中央に位置し、南は野猿で有名な高崎山をへだてて県都大分市と隣接し、北は県北テクノポリス圏として躍進する史跡の里国東半島の市町村と接し、西は阿蘇くじゅう国立公園に属する由布岳、鶴見岳の連山を中心に南北に半円形に連なる鐘状火山（トロイデ）に囲まれ、その裾野がなだらかに波静かな別府湾に続く扇状地です。

市内には、古くから「別府八湯」と呼ばれる温泉群が点在し、約2,300もの源泉から湧出する温泉は、毎分8万7千リットルにも及び、医療、浴用等々、市民生活はもとより、観光や産業面にも幅広く利用されている。

別府市の面積は、125.34km²。

別府市の観光動向（平成27年度）

観光客総数（A）	宿泊観光客数（B）	日帰観光客数（C）
8,79,440人	2,557,949人	6,239,491人

外国人観光客数 国別ベスト

国別	観光客数	構成比
1. 韓国	216,627	49.5%
2. 中国	95,533	21.8%
3. 台湾	60,839	13.9%
4. タイ	30,628	7.0%
5. シンガポール	7,204	1.6%

別府市の人口の推移

平成24年	119,480人
平成25年	121,998人
平成26年	121,026人
平成27年	120,185人
平成28年	119,945人
平成29年	118,761人

別府市の議員等報酬

議長	551,000円
副議長	496,000円
議員	463,000円
市長	894,000円
副市長	742,000円
教育長	664,000円

公民連携(PPP)の取り組みについて

担当：別府市 公民連携課

① 公民連携（PPP）とは

PPP ⇒ パブリック・プライベート・パートナーシップ
行政 民間事業者 共創

② 別府市で公民連携に取り組む背景

基本目標 ベっぴの未来を共創するために、別府市が持つ資源（人・温泉）をいかして新たな価値を創り、儲かる別府に進化する

③ 社会的要因

- ・ 人口減少による税収の低下
- ・ 社会保障費の増大
- ・ 市民ニーズの高度化、多様化

④ 公民連携に取り組む目的

- これまで行政が単独で取り組んできた分野に、民間の力を生かすことで、よりよい公共サービスの提供や財政の軽減、地域の活性化などを図る
 1. 市民サービスの質的向上
 2. 民間の資金やアイデア活用
 3. 地域経済を活性化
 4. 公共の財政負担を軽減

⑤ 公民連携への取り組み

■ 公民連携専任部署の創設

別府市では、民間と行政をつなぐ役割を担うため、平成28年4月に「公民連携室」を新設
平成29年4月、機構改革により「公民連携課」になった

⑥ 公民連携の役割

民間事業者 ⇒ 提案はあるけど、どこに相談すればいいかわからない

別府市各部局 ⇒ 課題を解決するアイデアはないか

公民連携課 ⇒ 提案、相談、意見交換のワンストップ窓口
行政課題の提示、民間提案の事業化を調整
PPPに参画するプラットフォームを構築

⑦ 平成28年度に行った取り組み

● サウンディング調査の実施

サウンディング調査 民間事業者のノウハウと市場性を把握することが必要ないくつかの項目を提示し、これと民間事業者による自由な提案を求め、企画提案書を提出いただいた民間事業者のなかから数社にヒアリング調査を行うことを基本とし、必要な情報を得るため柔軟な形状をとっていく

別府市 → 公民連携事業の発案や検討の段階で事業概要の公表を行い、民間事業者との直接の意見交換により、事業への有用な意見やアイデアを収集することが目的

【事例】

- (1) 「おんせん電源ステーション」の導入可能性をサウンディング調査
温泉の余剰熱源分利活用策として、年4月に「公民連携室」を新設

対話実施年月日 平成29年2月15・22日

参加業者 3社（県内2社、県外1社）

* 結果 地熱発電として、発電量があまり見込めない
市の負担が想定される

しかし、実施する方向で検討していく

(2) 鉄輪（かなわ）地獄地帯公園整備事業のサウンディング調査

鉄輪地獄地帯公園に隣接した未利用地（約3.0畝）の整備、運営等に民間活力導入を前提とした公募条件を整理するため、また、民設民営の公園整備や施設整備の可能性などを探ることを目的として、サウンディング型都市調査を実施。

対話実施年月日 平成29年3月8・15日

参加業者 3社（県内支店等2社、県外1社）

* 結果 民間資金導入は無理

⑧ 本年度予定している取り組み

● PPPプラットフォームの立ち上げ

◇ 地域プラットフォーム

地場企業や金融機関、教育機関等の様々な団体が集まり、PPP/PFIに関する知識の習得や異業種間のネットワークを構築し、案件形成能力を向上する場。

◇ 予定事業等の公表

市が計画している事業のうち、PPPによる事業実施の可能性があるものを、事業の進捗度合いにより整理して公表する。

早期の情報提供により、民間事業者からの事業に対する提言、発案等が期待される。

⑨ 公民連携と公共施設マネジメント

今後、公共建設物の維持更新において、大きな財政負担が予想されるため、施設の長寿命化や維持管理コストの縮減を図るため公共施設マネジメントに取り組んでいく。

やがて、更新の時期が到来することは避けられず、公共建築物の適切な維持更新を行っていくためには、設計や建設、維持管理・運営に至る一連の業務にPPPを積極的に活用し、投資額の縮減と平準化を図ることが必要不可欠です。

<行政調査の感想>

PPPは、行政（国や県や市町村など）と民間事業者が、連携して公共サービスの提供などを行う仕組みだ。行政が実施している公共サービスや社会資本整備などを、行政と民間が計画段階から、力を合わせて実施していくことだ。

別府市では、単独で実施してきた事業や、公共施設の整備・管理運営に民間事業者のアイデアやノウハウ、技術力、資金を活かすことで、市民にとっては、より良い公共サービスが提供され、別府市にとっては財政負担の軽減につながることを期待するようだ。

しかし、公民連携は一昨年からはまった事業で、いまだ、実績もないようで、今後の推移をみる必要があると思う。全国的に公民連携の範囲は、年々広がりをみせているが、現在、十和田市で取り組んでいる「指定管理者制度」や「PFI事業」もその一つだが、官と民（民の資金を活用）が連携して事業を作り上げていくことに、私は「すべてよいことだ」と思わないので、PPPの取り組みを、即、取り入れることには賛成はできない。

総務文教常任委員会・先進地調査視察報告書

舩甚 英文

1、調査日時 2017年7月19日(水)～21日(金)

2、視察先・視察目的

①大分県・臼杵市：婚活事業について

②大分県・別府市：公民連携（P・P・P）の取り組みについて

3、視察結果

※取り組みの経緯

①臼杵市においても、少子高齢化・人口減少が進んでいること。20年後には人口約3万人程度、10年以内には高齢化率は40%に達する模様。

②平成26年度に「まち・ひと・しごと創生法」ができ、早期に人口ビジョンを作成し、人口の現状と将来の姿を把握する。

③若年層、特に30歳代において、男性・女性共に未婚率が全国平均や大分県平均よりも高いことが判明！

④未婚率が高いことに伴い、第一子の出生率が低い実態がある！多子世帯にはなっているが・・・。

①平成27年度より婚活事業に着手

※臼杵市婚活推進協議会の設立 平成27年7月 委員は10人

②臼杵市でこれまで婚活に取り組んできた団体、地域活動団体の代表、一般公募による市民などで委員を構成し当時の協働まちづくり推進局内に事務局を置く形で組織する。

③推進協議会のメンバーは10人で、年齢層は20～70代と幅広い。また、未婚既婚を問わないこと。ボランティアのため、報酬はなし（交通費のみ支給）。

※婚活推進協議会の活動・平成27年度

①協議会（会議）の開催

婚活事業の方針の検討やイベント案の検討等

・ナインイの見合い大作戦！の開催に向けた参加者（20人は必要）集め

・主催婚活イベント「うすきブラ♡ブラ」開催・・・27年度1回だけ

12月7日実施、14:00～18:30参加者は男女各20人、参加条件は20歳～49歳の独身男女、参加料：男2,500円、女1,500円、結果は連絡先交換は11組。

うち2組が交際に発展。うち1組が29年6月に結婚。

・民間主催の婚活イベントの後援（広報・運営支援）・・・県との連携も

・フェイスブック立ち上げ

・イランショワ（お世話役）制度の検討

2017 ※婚活事業のさらなる充実・・・平成28年度

- ・国の少子化対策重点推進交付金の活用
婚活応援講演会・・・2回、スキルアップセミナー（男女各2回）
婚活パーティー・・・2回
- ・臼杵市婚活推進協議会による取り組み
- ・婚活支援イランショワさんの設置・・・個人単位でのきめ細かな支援
- ・大分県と愛媛県の連携による婚活フェリー・・・広域的な事業

※カップル成立数

- ・平成27年度 2組
- ・平成28年度 42組

増加の要因は？

①婚活イベント（パーティー）数の増加 3回→8回

②カップル成立のカウントの仕方を変更

兵27年度は、パーティーの中でカップリングをしていなかった。連絡先の交換数を把握するのみ。後日本当に交際に発展した件数をカウント（情報として把握できるもののみ）。平成28年度からは、民間のやり方を参考にしてパーティーの中でのカップリング。

男性は複数回参加あり、助成は1回が多い

- ・婚活協議会の会議開催 5回
- ・「うすきブラ♡ブラ」学校編・・・廃校になった学校を利用
- ・民間主催の婚活イベントの後援（広報・運営支援）
- ・民間事業の「少子化対策重点推進交付金事業」のバックアップ

4、感想

婚活推進協議会の設置と結婚支援員イランショワさんの組織化が、言っただけの成果を上げていると思われる。イランショワさん同席のもとで「お茶会」と称して、相談者同士の交流会を持つなど工夫されている。また、イランショワさんたちの連絡会を2か月に1回ほど開催し、情報交換をしていることもよかったと思われる。行政として支援する体制が望ましいと思う。十和田市でも考える必要があるのではないかと思われる。

B：別府市・・・PPP（公民連携）について

※PPPとはPublic-Private-Partnership

行政 民間事業者 共創

1、内容は別紙のとおりです。

2、感想

PPPの目的は、①市民サービスの質的向上、②民間資金やアイデアの活用、
③地域経済の活性化、④公共の財政負担を軽減すること。

以上のことから、今後委員会で、担当者呼んで、考えを聞きたいものだと思います。

別府市の公民連携の取組について



別府市 公民連携課

公民連携(PPP)とは

28.4 ~
公民連携課

P_{ublic} - P_{ri}vate P_{art}nership

行政 民間事業者 共創

7/20(木)

13:30 ~

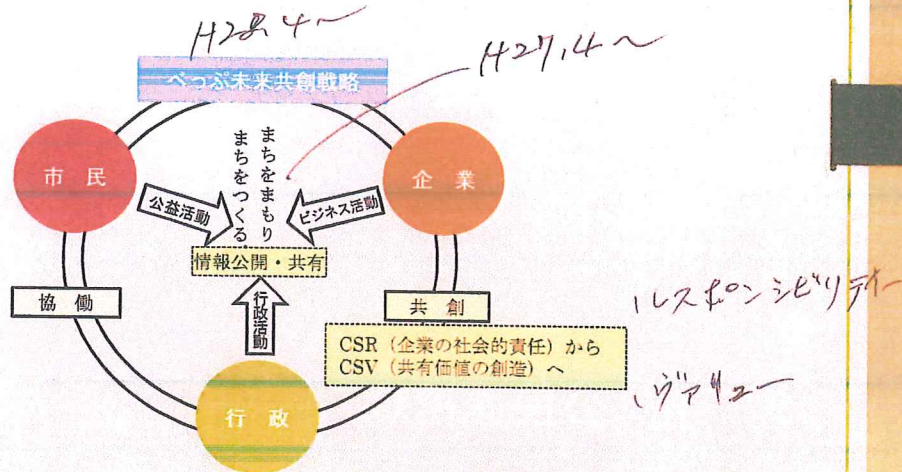
市長
橋本 さん



別府市で公民連携に取り組む背景

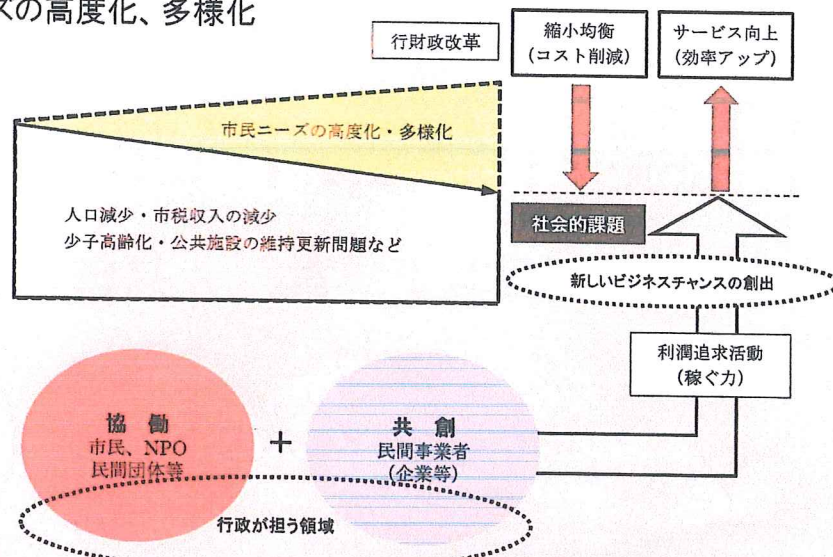
基本目標

【べっぷの未来を共創するために、別府市が持つ資源（人・温泉）をいかして新たな価値を創り、**儲かる別府**に進化する】



社会的要因

- 人口減少による税収の低下
- 社会保障費の増大
- 市民ニーズの高度化、多様化



公民連携に取り組む目的

- これまで行政が単独で取り組んできた分野に、民間の力を活かすことで、より良い公共サービスの提供や市の財政負担の軽減、地域の活性化などを図ります。

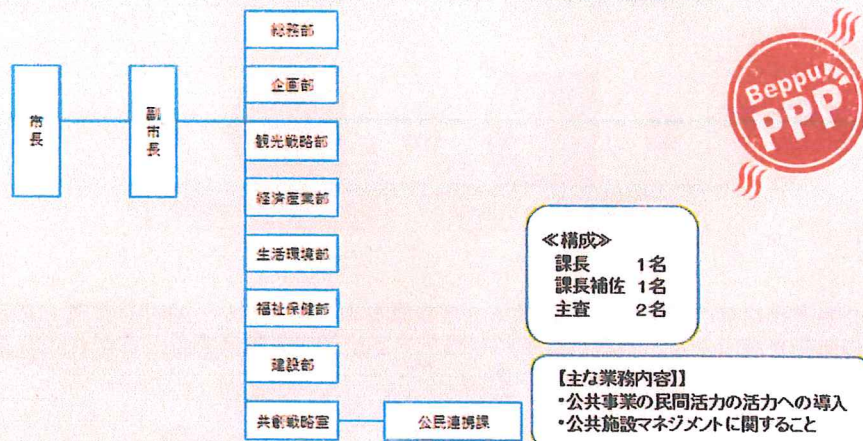
1. 市民サービスの質的向上
2. 民間の資金やアイデア活用
3. 地域経済を活性化
4. 公共の財政負担を軽減

5

公民連携への取組

- 公民連携専任部署の創設
別府市では、民間と行政をつなぐ役割を担うため、平成28年4月に公民連携室を新設しました。
平成29年4月、機構改革により公民連携課となりました。

共創戦略室公民連携課 組織体制



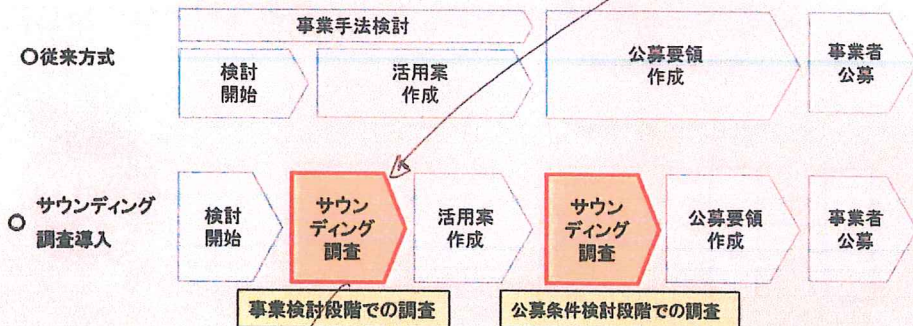
6

公民連携課の役割



H28年度に行った取組

● サウンディング調査の実施



事業調査検討
民間事業者の意見反映

公民連携事業の発案や検討の段階で事業概要の公表を行い、民間事業者との直接の意見交換により、事業への有用な意見やアイデアを収集することが目的です。

07/29 2回

① 「おんせん電源ステーション」の導入可能性に関する サウンディング調査

温泉の余剰熱源分利活用策として、「おんせん電源ステーション」導入可能性をサウンディング調査。

対話実施年月日 平成29年2月15・22日
参加業者 3社（県内2社・県外1社）



→ 小規模で
空放方向で、

インターネットで募集

② 鉄輪地獄地帯公園整備事業サウンディング調査

鉄輪地獄地帯公園に隣接した未利用地（約3.0ha）の整備・運営等に民間活力導入を前提とした公募条件を整理するため、また、民設民営の公園整備や施設整備の可能性などを探ることを目的として、サウンディング型市場調査を実施。

対話実施年月日 平成29年3月8・15日
参加業者 3社（県内支店等2社・県外1社）



最高事業検討会

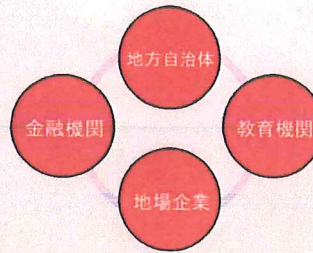
本年度予定している取組

20万人未満
8億円?

● PPPプラットフォームの立ち上げ

■ 地域プラットフォーム

地場企業や金融機関、教育機関等の様々な団体が集まり、PPP/PFIに関する知識の習得や異業種間のネットワークを構築し、案件形成能力を向上する場。



福岡市を
対象に

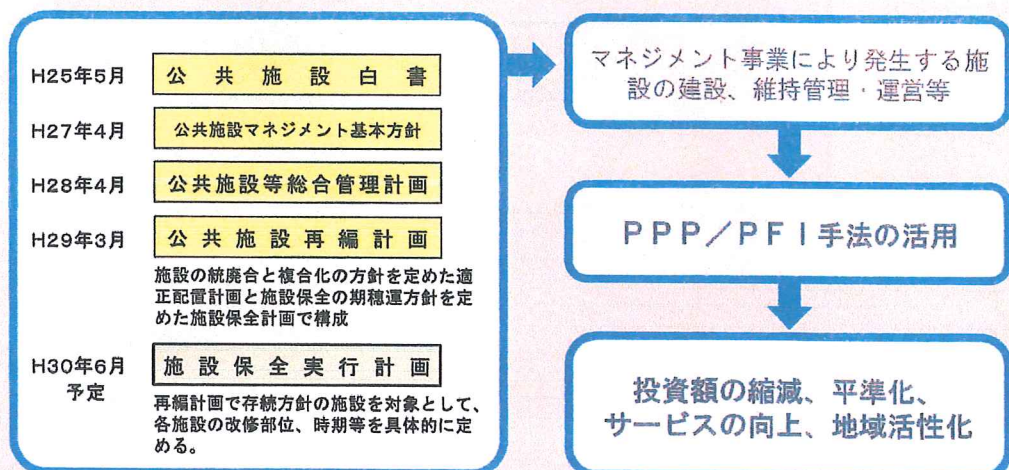
● 予定事業等の公表

市が計画している事業のうち、PPPによる事業実施の可能性のあるものを、事業の進捗度合いにより整理して公表します。早期の情報提供により、民間事業者からの事業に対する提言・発案等が期待されます。

11

公民連携と公共施設マネジメント

今後、公共建築物の維持更新において、大きな財政負担が予想されるため、施設の長寿命化や維持管理コストの縮減を図るため公共施設マネジメントに取り組んでいます。やがて更新の時期が到来することは避けられず、公共建築物の適切な維持更新を行うためには、設計や建設、維持管理・運営に至る一連の業務にPPPを積極的に活用し、投資額の縮減と平準化を図ることが必要不可欠です。



温泉リゾートホテル
極楽地獄
PARADISE HELL BEPPU

別府



spa amusement park

湯〜園地

7月29日(土)・30日(日)・31日(月) 開催

インターネットで見子さん

クラウドファンディング (募金?)
方式